

## 指導部だより

指導部高等学校教育指導課 指導主事 福田 由紀子

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申を受け、平成 29 年 3 月 31 日付で小学校及び、中学校学習指導要領が改訂され、今年度中には、高等学校学習指導要領の改訂について告示される予定です。

これを受け、今回は高等学校学習指導要領告示に向けて留意していただきたい点について触れたいと思います。

まず、スケジュールですが、平成 29 年 3 月に全都立高等学校・中等教育学校に配布させていただいた「中教審答申のポイント」【概要版】15 ページ下段の「次期高等学校学習指導要領に向けた準備のスケジュール例」を参考にいただき、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)、高等学校基礎学力テストの動向について注視してください。また、内容について、同資料 15 ページ中段の「次期高等学校学習指導要領に向けた主な準備事項例」を参考に、これまでの取組について課題を整理し、授業改善、学習評価の充実等を図るため準備を進めてください。その際、今回文部科学省から示された小・中学校学習指導要領等の改訂のポイントに、小中・中高といった学校段階間の円滑な接続や教科等横断的な学習を重視することなどがポイントとして挙げられていますので、先に挙げた 3 月告示の中学校学習指導要領に目を通すこともお勧めします。平成 34 年度に向けて、今後の動向を注視してください。

東京都教育委員会では、今年度も引き続き、科学技術系人材育成の拠点として、東京都の理数教育を牽引する理数アカデミー校 1 校、理数イノベーション校を 3 校指定しています。また、都立高校、中等教育学校 24 校を理数研究校に指定し、理数に関して特色ある教育活動を推進し、理数好きの生徒の拡充を図っています。今年度は、新規事業として理数研究ラボを立ち上げ、大学等の研究施設で行う高度な研究活動を通して、理数好きの生徒の更なる拡大を図っています。集中型のコースでは、2泊3日で筑波研究学園都市の大学、研究機関で研究体験活動を行い、通年型のコースでは、月に1~2回程度、都内の大学等で研究体験活動を行い、現在、全日程の3分の1が終了したところです。11月には「科学の祭典」、3月にも「科学の甲子園全国大会」が開催され、高校生の科学的に探究する能力や態度を育むことを目指し、課題を解決する能力、論理的思考力、科学的な感性・創造性を育成することを目的に取り組んでいます。

教育研究員及び研究開発委員会では、次期学習指導要領を見据え、前者では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について研究・開発、後者では、習得・活用・探究という学びの過程を意識し、「見方・考え方」について研究するとともに、学習活動の質を高め個々の能力を最大限に伸ばすための指導方法及び教材開発について研究を進めております。年度末に開催されます研究発表には、多くの先生方にご参加いただき、御教示いただければ幸いです。

東京都高等学校数学教育研究会の皆様には今後とも都教育委員会の取組について御理解頂くと共に、数学教育の充実に御尽力くださいますよう、お願い申し上げます。

## 東京都教職員研修センターだより

研修部専門教育向上課 指導主事 大塚 朝実

今年3月に小・中学校においては学習指導要領の改訂告示があり、7月には学習指導要領解説が出され、都内公立小・中学校に対し、新教育課程説明会が行われました。

さて、教職員研修センターでは、算数・数学の研修において、学習指導要領改訂に向けてのポイントや大学入試改革に関する最新情報等を学ぶことができる研修を実施しました。また、昨年度に引き続き、習熟度別指導ガイドラインの理解、東京ベーシック・ドリルの活用や都立高校学力スタンダード等、東京都の施策に基づいた研修を行い、先生方の個々の教科の指導力向上だけではなく、学校全体の学力向上を推進する視点を学ぶ研修も実施しました。

今年度実施の算数・数学に関する研修は、以下の通りです。

【算数ⅠA】小・特(受講者数89名)

「数学的活動を重視した算数の授業づくり」

【算数ⅠB】小・特(受講者74名)

「数学的な見方・考え方を育てる算数の授業づくり」

※東京家政大学と連携した研修

【数学ⅠA】中・特(受講者48名)

「生徒が学ぶことの楽しさや意義を実感する中学校数学の授業づくり」

【数学ⅠB】高・特(受講者24名)

「生徒の学習意欲を高める高等学校数学の授業づくり」

【算数Ⅱ】小・特(受講者66名)

「基礎的・基本的内容の定着を図る算数の指導の充実」

※「習熟度別指導ガイドライン」の理解と「東京ベーシック・ドリル」を活用した指導力の向上

【数学ⅡA】中・特(受講者40名)

「基礎的・基本的内容の定着を図る中学校数学の指導の充実」

※「習熟度別指導ガイドライン」に基づいた指導力の向上

【数学ⅡB】高・特(受講者17名)

「生徒の学力定着を図る高等学校数学の指導の充実」

※「都立高校学力スタンダード」に基づく指導の充実

【数学ⅡC】中・高・特(受講者23名)

「高等学校数学に関する授業研究」 ※都数研との連携研修

【算数Ⅲ】小・特(受講者22名)

「授業改善の視点と算数の指導の充実」

【数学Ⅲ】中・特(受講者18名)

「授業改善の視点と数学の指導の充実」

【進学指導Ⅲ】中高一貫教育校・高(受講者16名)

「大学への進学指導を重視した指導の工夫」(数学)

中央教育審議会では、新学習指導要領の改善の枠組みとして「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「子供の一人一人の発達をそのように支援するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」が示されています。特に、「どのように学ぶか」においては、学習・指導の改善・充実のため、主体的・対話的で深い学びを実現していくための授業改善が求められています。また、「何が身に付いたか」においては、学習評価の充実のために、観点別評価の促進が重視されています。

教職員研修センターでは、今後も教科の専門性を高めるための研修の充実を図って参ります。先生方には、研修を活用していただき、学校に還元していただくことを期待しています。